

# 尼僧加行所―養珠院行堂の開設を

(宮城県仙台市本国寺住職)

草野弘有

表題の趣旨は、尼僧(女性教師)専門の荒行堂「養珠院行堂」を、徳川家康没後四百年の二〇一六年に開設することにあります。

この構想は、師僧が宗務所長をしていた当時、尼僧さんから、荒行堂のような修行をする機会がほしい、と言われたのがきっかけです。

以来、様々な可能性を考えてきましたが、その場所は、大荒行先師心性院日遠上人と七面山女性登詣祖養珠院お万の方のお墓がある山梨県身延町・本山大野山本遠寺がふさわしい、との結論にいたしました。

本遠寺には、日蓮聖人直筆「今此三界災難除大曼荼羅」があります。この大曼荼羅を本尊として荒行願満鬼子母尊神をお祀りするお堂を建立することから始めます。

この構想は、本国寺創建のいきさつに関係します。戦前は新寺建立まかりならぬ時代であり、どこかの宗教法人を移転するほかに道がないなか、大野山本遠寺の末寺で廃寺同然の尼僧寺玄妙庵を再興する形をとって、宗教法人格を昭和十年に創建した妙唱教会(本国寺の前身)に移転した歴史にあります。その後、寺号公称し、昭和十五年に今日の本国寺になりました。この歴史を土台にした、本遠寺への「知恩報恩」の構想です。

養珠院行堂の期間は、十月二十七日～十一月三十日までの三十五日間です。

十月二十七日～十一月十六日(自行三週間)

十一月十七日～三十日(化他行二週間)

本宗修法の歴史から見れば、荒行の原点日像上人の修行は、十月二十六日から百ヶ日間行われています(註①)。こうすれば、二月三日が成満、つまり寒一百日の修行という意味が出てくることに気がつきました。

さらに、かつて開設されていた身延山行堂を十月二十六日から始めれば自行三十五日間は十一月二十九日まで、十一月三十日が化他行開始の初日、面会の始まりになります。つまり、十一月三十日に養珠院行堂の出行に立ち会い、身延山行堂の面会開始初日で面会にも立ち寄れます。

ちなみに、身延山行堂を十月二十六日開始とした根拠である日像上人の荒行にちなみ、身延山行堂を「像師行堂」と別称してみたい、と思います。

化他行は、十一月十七日に七面山に登詣し、十八日下山の折に七面天女像を本遠寺にお遷しし、二十九日まで養珠院行堂で七面天女像出開帳を行い、三十日に出行します。

こうすれば、高齢化で七面山頂へ登詣できない檀信徒がお参りできる機会を作ることが出来、一方で、本遠寺興隆の一助にもなるものと思います。

二十一世紀、女性を活用できない組織は衰退するといわれています。養珠院行堂が、御降誕八百年の記念事業となり、女性教師の修行場として開設される事を、切に願うものです。

何よりも養珠院行堂が、本遠寺の寺おこし、身延町の町おこしの起爆剤にもなり、宗門の興隆に繋がることを祈ります。

註①

『日蓮宗事典』九四九頁「本宗修法の歴史（Ⅰ）」

「修行の行規」祈祷修法の修行に一百日加行あるいは一千日加行とかいわれるが、一千日加行は一百日加行をもととして積み重ねられたものである。一〇〇〇日の行を行ったのは本宗では日像が初めであろう。日像の資・大覚の自記によれば、京都開教に身心を練磨せんとして永仁元年（一一九三）一〇月二六日より一〇〇〇カ夜の間寒風に身をさらし、自我偈百巻を読み所願成就されたという。（以下省略）